

図書館だより

1986. 6.15

第8巻2号

通巻98号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

こういう題で自分のことを書くほど私はキザではないつもりだし、若者の活字離れということが言われている此の頃、この題はやや時代錯誤の感じがするであろう。私が君たちのような大学生だった頃の本についての思い出もあるのだが、今は君たちにとっては時代錯誤と感じられるかも知れない（私はそうであっては欲しくないと思っている）次の詩を読んで欲しい。本が好きでたまらない或るイギリスの青年のことを書いた詩である。

それから私は
エセックス通りで古本店を見つけた
ほこりをかぶりひからびてうず高く積まれた
赤いラベルに金文字の——メーソン作品集
（だが二巻目が無い）ヤングの「夜の思想」
ファルコナーの「難破船」とブレアの「墓地」
一列に並んだスコット全集 不揃いは一目瞭然
そしていつも何処かにバーバーの「ワイト島」誰も読まない古書
「ノッティンガム州の教会の鐘」「洗礼盤」
（「稀観本、2シリング6ペンス 図版教枚や変色」）
かつてファリンドン通りの露店で
大きな石版画の地図を見つけた
「イオニア諸島の光景」の見返しに
エドワード・リア著と刻まれていた——1シリングでそれを買った
ゴールドスミスと「不法行為の法律」にはさまれて
おそらく——だがそれが汚ない本屋がこんな
欣びを私に与えてくれる理由ではなかった
ただろう。
型押し皮や墨流し模様の紙や金箔の縁
何處かの国の郷土の紋章の蔵書票
彼の大きな書齋の窓から彼の庭園が広がり
それをこのびかびか光った本の背がかつては
見たかも知れない

わたしの
Tosho 感

本に魅せられた青春

図書館長
橋本雄一

その一對の燭台は この広い題とびらに
やさしい光を投げていたかも知れない
忘れられた詩人たちや山の生々とした描写に
趣味をもっている人たちとか
地方や教会の廃墟は私をととても欣こばせた
だが鉄板画がとりわけ私を欣こばせた——
ロンドンにリヴァプールに
北のアテネと言われるエジンバラの景色の本が
私は散文の説明文を読み図版に見とれ
玉石の上を行く市場の荷車の音や
スマークの設計で最近建った教会の
尖塔のある入口の方へ夫婦が歩いて行ったとき
宿屋の外で乗合馬車の戸の閉まる音が聞こえた
そして何處か最近出来た広場をぶらついた
宝物を手にして本屋を出ると
私の目には電車も見えずバスの音も聞こえな
かったし
モダンなロンドンも目に入らなかった
私はジョージ四世と御者の吹くラッパと街の
叫喚と鐘の音と共に家路についた
帰宅すると母は「また本かい」と溜息をつき
父は私に半クラウン手渡ししながら
「本を買わなけりゃならんのなら一番良いの
を買えよ」と言った（訳責筆者）

この青年の名はジョン・ベッチェマン
（John Betjeman）と言い、1906年ロンドン
の家具製造業の家に生まれ、オックスフォードを卒業し、高名な建築批評家兼詩人となり、
1972年には桂冠詩人となり騎士の称号を受けた。この詩は彼の自伝的詩集「鐘に召されて」
（*Summoned by Bells*）（1906）からの抜粋である。一昨年（1984）亡くなったが今日イギリスで最も愛読される詩人の一人である。
（はしもと・ゆういち 英文学）

日本のモンテーニュ?!

一言では要約できない存在

日本人とユダヤ人 イザヤ・ベンダサン著
山本七平訳 山本書店

昭和46年(1971)のベストセラーです。著者のイザヤ・ベンダサンは訳者の山本七平と、ほぼ同一人物と見られていました。七平氏は印税は私には入ってきません(つまり著者ではない)と言いましたが、覆面著者としてずい分騒がれました。

真相は「タルムード」資料(旧約聖書以降のユダヤ教文書の集大成)を提供してくれた人を著作権者にしたということで、タルムード全部を読んで、それを資料的に駆使するのは、日本人では一生かかっても無理です、と「山本七平全対話 6(全8巻)」(1984~1985)で話しています。

彼は、大正10年東京生まれで、祖父以来3代目のクリスチャン。昭和33年に自称零細出版社山本書店を創立・経営、聖書関係の出版物を刊行しています。「日本人とユダヤ人」で彗星の如く登場、以後評論で大活躍していますが、そうなると批判・反論・罵倒まで含めた大変面白い論争が、雑誌「諸君」等に載りました。どうなることかと見守っていたのですが、残念なことに論争はすぐ止み、The dogs bark, but the caravan goes on(犬は吠えなくても隊商は進み続ける)の諺どおり、七平キャラバンは今も健在で、この15年間に対談集、翻訳本も含めて50冊以上が刊行されています。

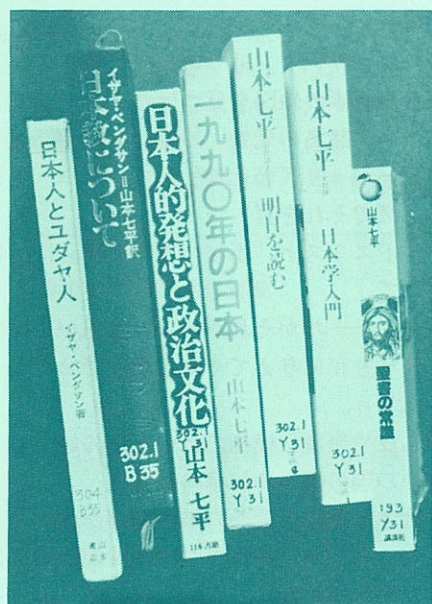
お薦めの一冊は、「1990年の日本」(1983)、今から3年前に書かれた本で、1986年は現在進行形でその予測が当たっているのかどうか、又今から5年後がどうなるかがわかります。予測の方法は、「民族の履歴書」を書くということ。「歴史のある点に、数ヶ所、座標をおき、これを結んだ軸、すなわち座標軸が示す方向を見る、という形で未来を予測する」やり方です。自らの履歴書を検討して、欠けた点を自学自習で補い「どうなるか」と考え込むのではなく、「どうするか」を考える。そうすれば、近未来に何をなすべきかがある程度は明らかになると前書きにあります。「山本学」の創造に対して1981年の菊池寛賞を受けていますが、この「民

山本七平の風景

族の履歴書」は山本学の重要キーワードの一つです。

山本七平は日本のモンテーニュと絶賛しているのは、「完本・紙つぶて」「牙ある蟻」の著者の毒舌家谷沢永一氏(関西大学国文学科教授)。「人間通でなければ生きられない」(1981)の中で、「モンテーニュの主義主張を短時日に知ることには、あまり意味がない。全身全霊で考える思考の際の血液のめぐらし方、循環スタイルが読み手に伝わってきて、モンテーニュの思考リズムを捉えることができれば、それで「モンテーニュを読んだ」ということになるのだ。同様に山本七平を読む喜び、楽しみ、メリットも、彼が見、感じ、思い、考えるそのプロセスをたどることの中にある。このタイプは、日本文学史、思想史上めったに現れない貴重な人材なのだ。”

思想上なんて言われても、余り縁のない者としては、ふ〜む?と思うだけですが、山本七平の言葉には絶えず注意しておくのがトクというのなら、ウン、わかる。(K)



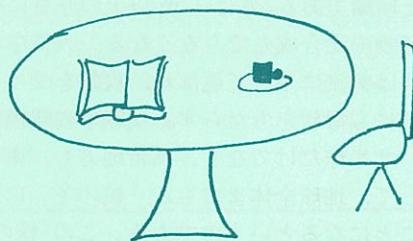
私的知の読書法

コーヒー・タイム

小説を読むことは楽しいことです。時代や国を越えた様々な人の生き方やその背景となる世情を知ることができるからです。実際にはありえないと思いつつもストーリーの展開に時間のたつの忘れたり、登場人物の生き方に感銘を受け、自分もこうありたいものだと読み終わった後、ある種の感動にひたる小説も多々あります。現実には、私たちはせまい範囲の人たちの生き様しか知ることができません。それにとにかく自分の経験からの価値観からだけで簡単に思いこみ判断をし人を評価してしまいますが、種々な小説を読み、小説の中の人物の生き方を知ることによって心の柔軟性を養うことができます。しかし、この満足感を味わうことが小説をよむ目的なのでしょうか。以前、乳牛にクラシック音楽を聴かせたところ乳量が増えたという話をきいたことがあります。牛は音楽を理解するはずはないので感覚的に感動し(?)よい心持ちになって乳量が増えたのだと思います。私はこの読後の満足感はどうもこの牛のよい心持ちと同じような気がします。では牛とは違う満足感とは何でしょう。それは客観的に理解をしたうえで感動することだと思います。客観的に理解するには種々な方法がありますが、まず著者を知ること、経歴、思想傾向を作家研究の図書から、世情(歴史、文化、地理等)はその分野の図書から知るこ

とです。それに加え学生の皆さんは、授業で心理学や論理学を学んでいるのですから、作品中の人物の心理分析を試みたり、感覚的には理解できても論理的にはどうなのであろうかと疑問をもつことだと思います。このような方法で理解を得てもう一度同じ小説を読めば、受け取り方もおのずと異ってくると思います。そして新たな感動を受けたならその小説は自分にとって良質の文学といえるでしょう。良質の文学をみわけするには古典を読むことも大切です。年月というふるいにかげられた作品は、時代の流れによって人の持つ価値観は少しずつ変わってもその間に沢山の人が感動したものは現代に生きる私たちにとっても良質の文学だといえましょう。人の心理は、昔も今もあまり変りはないと思います。

以上筆者のつたない文章で読書方法を述べましたが、自己流の読書方法を探し、現代の種々な機関からでている膨大な情報の中から必要なものだけを選び、真偽を正確に判断する内面的想像力を養うことを期待します。(○)



新着図書(選) - 教養

私の自己啓発法 渡部昇一〔ほか〕著 講談社/乱読すれば良書に当たる 百目鬼恭三郎著 新潮社/西洋をきずいた書物 J.カーター、P.H.ムーア編 西洋書誌研究会訳 雄松堂/論理学を学ぶ人のために 飛田就一著 世界思想社/アパシー・シンドローム 一高学歴社会の青年心理一 笠原嘉著 岩波/空海の夢 松岡正剛著 春秋社/概説東洋史 堀敏一 山崎利男編 有斐閣/ローマの共和制 J.ブライゲン著 村上淳一 石井紫郎訳 山川出版社/概説イギリス史 青山吉信 今井宏編 有斐閣/最後のロシア皇帝ニコライ二世の日記 保田孝一著 朝日新聞社/天皇 一天皇の生成および不親政の伝統一 石井良助著 山川出版/紋章の国イギリスの旅 森護著 日本放送出版協会/湯川秀樹 桑原武夫〔ほか〕編 日本放送出版協会/学問への憧憬 竹内均著 佼成出版社/飢餓の証人 一世界

を翔ける農学者一 R.デュモン著 服部伸六訳 三一書房/ガルシア・ロルカの死 一スペインの光と影一 J.L.ピラ=サン=フワン著 松田忠徳訳 彩流社/シルクロード 一絹(シルク)の起源をさぐる一 L.ブルノア著 長沢和俊 伊藤健司訳 河出書房新社/シルク・ロード 深田久弥著 長沢和俊著 角川/ワシントン家族日記 飯塚譲二著 山海堂/自信と過信 一日本人に言いたいこと一 G.ヒールシャー K.ヒールシャー著 サイマル出版会/先進社会のジレンマ 一現代フランス社会の実像をもとめて一 宮島喬〔ほか〕著 有斐閣/不思議の国イタリア 一倒れない斜塔一 堀新助著 サイマル出版会/大衆的知識人の時代 一現代思想の読み方一 神津陽著 彩流社/さよなら、大衆 一感性時代をどう読むか一 藤岡和賀夫著 PHP 研究所/生き方の定義 一再び状況へ一 大江健三郎著 岩波/桑らかい個人主義の時代 一山崎正和对談集一 山崎正和〔ほか〕著 中央公論社

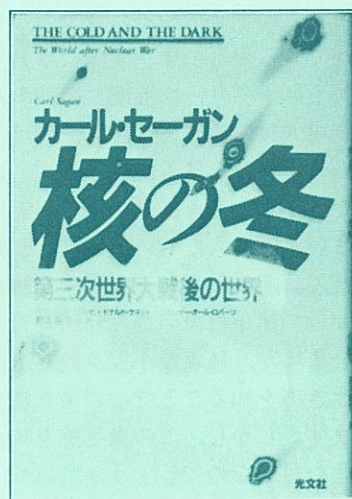
核の冬 (The Cold and the Dark) カール・セーガンetc. 野本陽代訳

光文社 1985

広島、長崎に原爆が落とされてから40年。いま、核兵器をめぐる新たな論議が起こっている。

しかし、どの立場にいる人でも知っておかなければならない衝撃的な研究結果がここにある。

核戦争が実際に起きたならば、私たち人間が、私たちの住むこの地球と多くの生物が長期にわたって「寒気と暗闇」に襲われ、壊滅的な影響を受ける、というのである。この本は、1983年秋にワシントンで開かれた国際会議「核戦争後の世界」の記録である。この会議では、米ソほか世界中の数多くの科学者によって、次のことが明らかにされた。きわめて限定的な核使用、たとえば、米ソの現有の核のわずか約0.8%が、燃えやすい都市や森林に対して使われただけでも、都市火災や森林火災が起き、大量のチリとススが大気中に巻き上げられ、地表に届くはずの太陽光線がさえぎられる。その結果やってくるのが数ヶ月にも及ぶ厳しい寒さと暗闇である。水は1 m以上の厚さに凍りつき、植物の光合成もできなくなる。大気中のチリとススは気流に乗って運ばれ、攻撃を受けなかった地域にも惨状をもたらす。核戦争の規模によっては、北半球だけでなく、熱帯地方も、南半球も、そして、地球全体までもが「核の冬」に見舞われることになるというのである。この「核の冬」



理論の登場で、大きな衝撃を受けたのは、米国の国防総省で、この会議の後、直ちに専門家に対して、追跡調査を要請したということからも、この会議で「核の冬」理論が全世界に認知されたと言えよう。編者、カール・セーガンは、米国コーネル大学惑星研究所々長で、マリナー、バイキング、ボイジャーなどの探査で活躍、最近日本で放映されたテレビシリーズ「コスモス」に出演し、ピーポディ賞を受賞。また著作「エデンの恐竜」で、ピュリッツァー賞を受賞している。(S)

新着図書(選) - 経済

日本の国力 — 「財力世界」の意外な中身— 講談社編 (同編者) / 第三世界の問題を考える 現代技術史研究会編 勁草書房 / 経済学から経済政策学へ 市川泰治郎著 新評論 / 無資源国の経済学 一新しい経済学入門— 森嶋通夫著 岩波 / 初期マルクス経済学説の形成 上, 下 D.I. ローゼンベルク著 副島種典訳 改訳版 大月書店 / 金融機構の理論 山口重克著 東大出版会 / フリードマンの日本診断 M. フリードマン〔ほか〕著 講談社 / 一九九〇年代の日本経済 経済展望談話会編 有沢広巳監修 東大出版会 / 日経社説に見る戦後経済の歩み 日本経済新聞社編 (同編者) / 中国人記者が見た日本の経済成長 周斌著 日本経済新聞社 / 消費社会の誕生 — 近世イギリスの新企業— J. サークス著 三好洋子訳 東大出版会 / 日本経済地理読本 板倉勝高〔ほか〕著 第4版 東洋経

済新報社 / マクロ経済政策 土屋六郎〔ほか〕編著 中央大学出版社 / 欧州共同体案内 — 変りゆくヨーロッパ— R. プロード R.J. ジャレット著 富岡隆夫訳 改訂版 サイマル出版会 / 国際経済学 C.P. キンドルバーガー P.H. リンダート著 相原光〔ほか〕訳 評論社 / パワー アンド マネー — 権力の国際政治経済の構造— C.P. キンドルバーガー著 益戸欽也訳 産業能率大学出版社 / 現代の世界経済 大下悦二著新版 有斐閣 / 経営統計学 田中章義〔ほか〕著 北大図書刊行会 / 予感新産業社会 中谷巖編 TBSブリタニカ / やってみなはれ 田辺昇一〔ほか〕著 産業能率大学出版社 / 企業の論理 — 社会科学としての経営学— 小松章著 三領書房 / フォーティズムと新しい経営原理 向井武文著 千倉書房 / 実践国際ビジネス 住友ビジネスコンサルティング株式会社著 東洋経済新報社 / 総合商社の挑戦 — 経済開発のマーチャント— 小島清 小沢輝智著 産業能率大学出版社

「自著を語る」①

『日本資本主義と北海道』

北海道大学図書刊行会1986

田 中 修

昭和28年10月、本学の助手を命ぜられた私は、今後の研究をいかにすすめるかで迷っていた。本学をとり巻く諸条件から対象を北海道にしぼるとして、どの時期のどんな問題をどんな史料をもとに分析すればよいのか、北海道史研究にはじめて取り組む私には、皆目見当がつかなかったからである。そんな時私の望みをつないだのは、上原学長⁽¹⁾が教えて下さった「北駕文庫」⁽²⁾の存在であった。

雪が舞いはじめた11月、許可を得て「文庫」を収蔵する石倉の重い扉を開いた。埃にまみれ探査した結果、「北駕文庫蔵書略目録」を発見、やがて「黒田開拓長官」なる北海道史関係史料の存在を確認することができた。その中でとくに私の興味をひいたのが、明治20年前後の囚人労働と勸業に関する簿書であった。それは系統的に蒐集されたものではなかったが、そこでかいま見た北海道開拓の在り様が、私の研究に大きなヒントを与えることになったのである。

すでに私は、北海道大学の山口和雄先生と、道史研究に新生面を拓きつつあった奥山亮先生のご教示を得て、近代北海道経済史の研究を志していたが、この史料との出会いによって、日本資本主義の発達植民地北海道にいかなる相貌を呈しながらたち現われたのか、という視角からこの研究をすすめることに思い定めたのであった。

爾来30年、研究は雑事に追われ遅々として進まなかったが、私の研究視角は一貫して変わることがなかった。囚人労働にはじまり、場所請負制度の解体、工業発展の特質、幌内炭鉱鉄道の官営と払下げなどに及ぶ実証分析と、辺境論を中心とする方法論的検討は、そのような視角にもとづく研究の具体化であった。

日暮れて道遠し、の感が深いのが、研究に一応の区切りをつけ、全体としての見直しをするために、既発表の論文を中心に取りまとめたのが本書である。なお書名には研究の視角に最もフィットすると思われるものを撰んだ積りである。



〈プロフィール〉

田 中 修 学長
(たなか・おさむ)

1930年青森県に生れる 1953年 北大法経学部経済学科卒業 1968年本学経済学部教授 1984年7月より本学学長。著書に、『資本主義の形成と発展』（大塚久雄ほか編共著、東大出版会、1968年）、『近代日本経済史』（共著、日本経済評論社、1980年）、『一般経済史』（長岡新吉・石坂昭雄編共著、ミネルヴァ書房、1983年）、『殖民公報』（覆刻、榎本守恵ほかと共編、一光社、1985年）ほか。

注：(1)上原学長

初代学長 上原徹三郎先生 昭25年3月～43年5月

(2)北駕文庫

道内外の古文書3万1千冊、119巻の巻軸がある。松浦武四郎の真筆（書翰の草稿）、寛政12年 村上島之丞「蝦夷島奇観」（エゾ地の物産、アイヌ風俗図説）から日本初の雑誌「玉石志林」、新聞「珍々団々」、「開花新聞」まで。また簿書類、太政官日誌、開拓関係資料、漢籍、国文、明治、大正期の雑誌、洋書、古い翻訳書、辞書類、営業報告書、要覧など道内外に誇りうる貴重、かつ広範囲、多岐に渡る蔵書内容である。

オーストラリアは地球のシネラマだ

地球の歩き方シリーズ

④オーストラリア&ニュージーランド1985~1986年度、(ダイヤモンド・ステューデント友の会、ダイヤモンド社 昭60)

この本は、'84年の春、夏に、オーストラリア、ニュージーランドを旅行した約3,000名の体験をもとに作られている。ホテルやレストランなどの料金は時間の経過と共にズレがでてくるため、調査の年度を春、夏に分け、データの追跡調査と修正を随時、行っている。また、寄稿記事として、体験者の印象、評価などがあり、ホテルなどを選ぶよい目安になる。自由旅行に必要な情報はアゴ(食事)、アシ、ヤド。特にオセアニアではバスや列車の情報が、いい旅をするひとつのチェック・ポイントになる。本書では、交通機関についても、主要路線の時刻表や料金表を入れてある。当シリーズ所蔵分。

3;インド・ネパール 7;東ヨーロッパ 9;旅の6カ国語会話集 10;ヨーロッパのいなか 13;パリとフランス 14;韓国 トーマスクック時刻表 その他購入予定。(S)



館・動・静

▷夏期休暇中の長期館外貸出について

夏期休暇中の長期館外貸出を次の通り、行いますので、利用してください。尚、夏期休暇中でも、図書館は休館いたしません。

貸出期間：7月7日(月)~9月3日(水)

返本日：9月4日(木)

貸出冊数：3冊

▷卒論、ゼミレポートを作製する方へ

卒論、ゼミレポートなどを作成する方のために、図書を5冊まで、1ヶ月の間、利用できる特別図書長期利用制度がありますので、利用希望の方は、カウンターでお尋ねください。また、他大学図書館、研究機関を直接、利用したい方には、利用先宛の紹介状を発行します。

▷購入希望図書について

図書館では、今回、学生諸君の中からモニターを募集し、図書館に備え付けてほしい図書を選定していただきました。購入希望図書がありましたら、一階閲覧室、工学部分室備え付けの選定票に記入し、投函してください。尚、投書箱は、学生部前と学館学生ホールにも置かれる予定です。

▷増加図書目録21号(昭和58年度)発行

昭和58年4月~昭和59年3月までに受入れ整理した和漢書4,712タイトル(9,400冊)、洋書2,701タイトル(5,280冊)を収録。著者、書名索引あり。405P。

新着図書(選) - 法律

戦争責任 家永三郎著 岩波/日本オーストラリア関係史 P.バンツァー著 竹内精一 芹沢ユリア訳 創造社/南アフリカの内側 一崩れてゆくアパートヘイトー 伊高浩昭著 サイマル出版会/スターリン その謀略の内幕一 N.トルストイ著 新井康三郎訳 読売新聞社/戦後民主主義の決算書 菅孝行著 農山漁村文化協会/危機の政治学 一ファシズム論と政治過程一 安部博純 石川捷治編 昭和堂/政治哲学 A.クイントン編 森本哲夫訳 昭和堂/政治学への道案内 高島通敏著 増補新版 三一書房/日本の政治風土 一新潟三区にみる日本政治の原型一 福岡政行著 学陽書房/明治憲政論 伊藤勲著 成文堂/保守体制 上,下 白鳥令編 東洋経済新報社/クラブ-18世紀イギリス・政治の裏面史一 小林章夫著 駿々堂/現代ソ連・東欧の政治と経済 梅津和郎 福

田敏浩編 芙蓉書房/現代国家の諸相 横越英一編 昭和堂/天皇制の深層 上山春平著 朝日新聞社/日本警察の解剖 鈴木卓郎著 講談社/国と地方 一政府間関係の国際比較一 片岡寛光編 早稲田大学出版部/世界紛争地図 A.ボイド著 辻野功 藤本篤訳 創元社/国際政治とヨーロッパ 一西ドイツを中心として一 高橋通敏著 弘生書林/法律基本用語辞典 吉田諒吉編 同学社/法の詩学 一グリムの世界一 堅田剛著 新曜社/日本人の法観念 一西洋的法観念との比較一 大木雅夫著 東大出版会/法社会学研究 栗本慎一郎編 三嶺書房/イスラム法への招待 日本比較法研究所編 中央大学出版部/イスラム法の本質 真田芳憲著 中央大学出版部/公法入門 一憲法・行政法・地方自治法・地方公務員法一 月刊「地方自治職員研修」編集部編 公務職員研修協会/財産権論 一現代憲法学の課題一 渡辺洋三著 一粒社/日本国憲法原論 田上穰治著 新版 青林書院/違憲

昭和60年度 図書館統計

1. 蔵書冊数

和 書	洋 書	計
229,593	79,420	309,013

3. 雑誌受入種類数

内 訳	和雑誌	洋雑誌
講 入	366	342
寄 贈	1,689	110
計	2,055	452

7. 相互協力

	国 内				国 外			
	文献複写(件)		図書貸借(冊)		文献複写(件)		図書貸借(冊)	
	受 付	依 頼	貸 出	借 受	受 付	依 頼	受 付	依 頼
昭59	101	181	91	275*	0	27	0	7
昭60	152	345	81	630	0	52	0	6
増減	+51(150%)	+64(190%)	-10(89%)	+355(230%)	0	+25(193%)	0	-1

※昭和59年度、図書借受冊数で全国私大521館中第5位（日本の図書館1985より）

8. 参考業務一文献所在調査受付件数 1,445件

9. 他機関利用者へ紹介状発行件数 119件

学生 37 教職員 78 院生 4

2. 年間増加冊数

	和 書	洋 書	計
昭59	11,648	3,860	15,508
昭60	13,360	6,560	19,920
前年比	+1,712(115%)	+2,700(170%)	+4,410(128%)

4. 貸 出

開館日数 289日 入館者数 109,520人

館外貸出冊数 17,632冊

学生 7,329 教職員 10,033

5. 文献複写サービス枚数 181,120枚

学内 179,094 学外 2,026

6. リーダープリンターコピー枚数 723枚

学内 602 学外 121

10. 学外者の本館利用 86人

学生 15 教職員 17 院生 2 北駕文

庫利用者52

(昭和61年3月31日現在)

審査の基準 浦部法穂著 勁草書房／行政法散歩 塩野宏 原田尚彦著 有斐閣／土地所有の構図 大沢正男著 早稲田大学出版部／法学・憲法の基礎 園田恭子著 法律文化社／物権法要説 菊池定信著 敬文堂／契約の理論と実務 藤井康長 小笠原春夫著 新版 良書普及会／ビジネスマン必携契約の法律知識 Q&A 金融財政事情研究会編／会社法入門 並木俊守著 中央経済社／会社法 酒巻俊雄 柿崎栄治編 一粒社／海商法詳論 田中誠二著 増補3版 勁草書房／手形・小切手のはなし 大和銀行調査部著 有斐閣／手形法小切手法講義 砂田卓士著 中央経済社／大塚刑法学の検討 中山研一著 成文堂／現代人の攻撃性 一なせ人は攻撃するのか 福島章著 太陽出版／司法のあり方と人権 芦部信喜著 東大出版会／民事訴訟法セミナー 林屋礼二 小島武司編 有斐閣／民事訴訟法 三ヶ月章著 第2版 弘文堂／刑事訴訟法基本判例解説 渥美東洋編 三領書房／荒野に

新着図書(選) - 法律

追われた人々 一戦時下日系米人家族の記録一 ウチダヨシコ著 波多野和夫訳 岩波／男女雇用機会均等法の労務 一モデル例でわかる改革のすすめ方一 荻原勝著 中央経済社／土地信託の実務 住友信託銀行編 東洋経済新報社／市民福祉と都市財政 一ある市民と市長との対話一 石原信雄著 新版 良書普及会／イギリス近代社会事業の形成過程 一ロンドン慈善組織協会の活動を中心として一 高野史郎著 勁草書房／健康保険の手続早わかり 土屋彰著 中央経済社／労働用語辞典 塩田庄兵衛編 東洋経済新報社 第2版／ワーキング・フリー 一さよなら／九時五時労働一 J. アップルガス著 川喜多喬訳 有斐閣／労働協約読本 沼田稲次郎〔ほか〕著 東洋経済新報社／国営・公営企業の労働関係法 下井隆史〔ほか〕著 有斐閣／労働組合法 山口浩一郎著 有斐閣

南国から渡る夏鳥

色彩あざやかな

“野鳥の宝石”

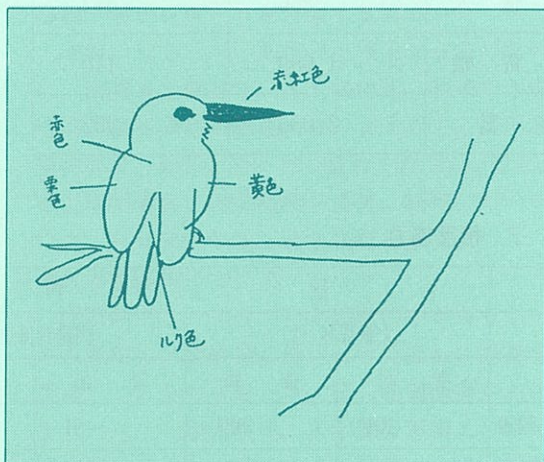
火の鳥を求めて

—嶋田忠氏の世界—

魚や花の名前はすぐ出るが、鳥となるとそうはいかないのが常。「アカシヨウビン」を知っている人は少ないだろう。赤いくちばし、黄色の腹部、背はルリ色、栗色、そして赤色と全身「野鳥の宝石」のようだ。▶この鳥を求めて写真家・嶋田忠氏は東京から北海道に移り住んだ。はじめは「カワセミ」を追っていたがアカシヨウビンにねらいを定めて撮りつづけている。彼は幼い頃読んだ手塚治の「火の鳥」のイメージをアカシヨウビンに見出した。そこには一つのものを追いつける男のロマンがある。▶昨年(1985年)出版した『火の鳥・アカシヨウビン』は鳥を知らない人たをきっと鳥好きにするだろう。

〈メモ〉

英名は Ruddy Kingfisher というからさしずめ「赤い名漁師」ということか。長いくちばしはフォークともナイフともとれる。小魚を溪流で採り、カエルやみみずが好物という野性を持つ鳥。古来人はこの鳥を「水乞鳥」とも「雨乞鳥」とも呼んで来た。キョロキョロと鳴く。▶南方ジャワなどから初夏に飛来し晩夏に帰る。同じ仲間にカワセミ、ヤマセミのほか珍鳥としてヤマシヨウビンがいる。▶著者嶋田氏は埼玉県に1949年に生る。37歳。現在千歳市周辺の森をフィールドに活躍。(奈)



〈ほん〉 嶋田忠氏の本としては写真集『火の鳥・アカシヨウビン』平凡社、1985。のほかに『カワセミ—清流に翔ぶ』、『鳥—野生の瞬間』いずれも平凡社。など多数。野鳥観察ガイドとして『北海道の鳥』竹田津・小川、北大図書刊行会1981。『きたの鳥たち』野生生物情報センター1985がよい。

新着図書(選)—工学

東京の空間人類学 陣内秀信著 筑摩書房/東アフリカ歴史紀行 —ナイル川とインド洋の間— 高橋英彦著 日本放送出版協会/日本の小学生 —国際比較でみる— 千石保 飯長喜一郎著 第2版 日本放送出版協会/実験計画法演習 安藤貞一 朝尾正編 日科技連/ステップ式による統計的方法 藤代侑宏著 日科技連/分散分析法入門 石川馨 米山高範著 日科技連/現代量子力学の基礎 佐々木昭夫著 オーム社/太陽エネルギー利用ハンドブック 日本太陽エネルギー学会編 (同編者)
寒冷地域の自然環境 福田正己〔ほか〕編 北大図書刊行会/暮らしの気象学 倉嶋厚著 草思社/気候と人間 高橋浩一郎著 日本放送出版協会/これだけは知っておきたい土地の選び方 今村遼平著 鹿島出版会/文明のなかの生物社会 小田柿進二著 日本放送

出版協会/適応のしくみ —寒さの生理学— 伊藤真次著 北大図書刊行会/脳からみた心 山鳥重著 日本放送出版協会/センサ工学の基礎 山崎弘郎著 昭晃堂/有限要素法流体解析 川原睦人著 日科技連/小型コンピュータ使用マトリクス法による骨組の解析 室井修著 共立出版/建築技術者のための有限要素法入門 佐藤稔夫著 理工図書/BASICによる骨組応力解析 基礎編 魚木晴夫 柴田道生著 学芸出版社/21世紀にエネルギーはあるか —アメリカの実験— O.フィリップス著 糟谷紘一〔ほか〕訳 共立出版/製図マニュアル基本編 佐藤豪〔ほか〕編 日本規格協会/製図マニュアル精度編 新しい公差概念による— 佐藤豪〔ほか〕編 日本規格協会/システムズ工学用語辞典 大川雅司編著 工業調査会/官能検査ハンドブック 日科技連官能検査委員会編 新版 日科技連/管理図法 —品質管理教程— 別冊 日科技連 QC リサーチ・グループ著 石川馨編 日科技連/

ロマンの三角形 (第2回)

感動の二次方程式

今では中学生ともなれば2次方程式を根の公式を用いて容易に解く。しかし、そのプロセスについて十分な理解が得られているだろうか。古代バビロニアの書記たちは今から4,000年も前にそのプロセスをみい出していた。▶1935年、デンマークの数学者(現在はアメリカ)ノイゲバウアー教授が大英博物館、ルーブル美術館、ベルリン博物館などに散在する粘土板の中から数学の断片を集めて写真集として出版した。翻訳と注釈がついたこの本『粘土板の数学文書』Matimatische Keilteitextは古代数学の「記念碑」と言われている。その中の一つの例題を見よう。▶「正方形の面積と辺3分の2を加えたら0;35になった。一係数1を考える。1の $\frac{2}{3}$ は0;40である。その半分0;20は0;20をかけ、(その結果の)0;41,40の平方根は0;50である。それ自身にかけた0;20を0;50から引くと0;30は正方形の辺である。」ここには2次方程式の設問と解答の手引きが示されている。▶彼らの記数法が60進法なので説明が多少複雑にみえるが要するに $x^2 + \frac{2}{3}x = 0;35$ を $(a+b)^2 = a^2 + 2ab + b^2$ という公式に還元することによって解いている。つまり $(x + \frac{1}{2} \cdot \frac{2}{3})^2 = 0;35 + (\frac{1}{2} \cdot \frac{2}{3})^2$ を解いているわけである。彼らは与えられた問題を正方形の変形

古代バビロニアの数学

(右図は7のかけ算表)

	7 a-rá 1	7
	a-rá 2	14
	a-rá 3	21
	usw.	
	a-rá 19	2,13
	a-rá 20	2,20
	a-rá 30	3,30
	a-rá 40	4,40
	a-rá 50	5,50

とみ、これを基本形に復元していたのである。▶ここにはたしかに負の根は求められていないとしても、彼らがすでに高い数学の素養を持っていたことに「感動」を覚えずにはいられない。彼らはいとも楽しげに数の本性を操っている。それは単に実用性からくるものではなくそれを越えたところにあったとさえ思われるくらいだ。▶自然科学者たちはよく「個体発生は系統発生をくり返す」という命題を引用する。これは人間の認識が人類史の流れにそって行われるとき極わめて自然に得られることを意味している。数学を歴史的に認識することの重要性を古代バビロニアの数学は教えてくれる。彼らは本来「数学は楽しいもの」「数学がはじめにあった」と言いたげである。(世)

〈ほん〉 『古代の数学』アーポー、中村訳 河出書房、1987。『数学の黎明—オリエントからギリシャへ』ヴァン・デル・ワールデン、村田訳 みすず書房、1984。

TQCにおける問題解決法 日科技連問題解決研究会編 日科技連/官能検査入門 佐藤信著 日科技連/土木工学概論 一土木とは何か— 高橋裕〔ほか〕著 小西一郎監修 森北出版/BASICによる土木工学演習 大塚佐一郎〔ほか〕著 大地羊三監修 森北出版/マイコンによる土木実用プログラム入門 萩原浩編 近代図書/土木技術者のためのマイコン入門 山内博著 近代図書/わかりやすい岩盤調査の基礎知識 小松田精吉〔ほか〕著 鹿島出版会/地盤土と土層断面図 齊藤孝夫著 鹿島出版会/型枠の材料と合理化工法 内藤龍夫 水見恵二著 鹿島出版会/条件付観測と三角測量 一平解誤差処理と精度の計算〔ポケコンPC1501プログラム解説付〕 金井彌太郎著 山海堂/測量トレーニングノート 農業土木学会 高等学校農業土木教育研究会編 コロナ社/宅地造成の計画から販売まで 一需給かみあわせの技術— 支倉幸二編 鹿島出版会/最新・葉液注入工法の設計と施工 柴崎

新着図書(選)—工学

光弘 下田一雄著 山海堂/鉄道工学 天野光三〔ほか〕著 丸善/工法別下水道推進工法実例集 下水道管渠施工研究会編 山海堂/装置としての都市 月尾嘉男著 鹿島出版会/水辺の計画と設計 吉村元男 芝原幸夫著 鹿島出版会/合理主義の建築家たち 一モダニズムの理論とデザイン— D.シャープ編 彦坂裕〔ほか〕訳 彰国社/一本の鉛筆から 丹下健三著 日本経済新聞社/ポスト・モダンの時代と建築 磯崎新著 鹿島出版会/健康な建築 一イマジネティブな生活空間を求めて— 内山昭蔵著 彰国社/パソコンによる中小鉄構骨造の設計と計算 坂本吉隆著 オーム社/これだけは知っておきたいビル風の知識 風工学研究所編 鹿島出版会/寒地建築教材 概論編 日本建築学会北海道支部編 彰国社

幸福来る「楽天性」の森へ

ーグリムの「白雪姫」を読む

『グリム童話』を残酷と評する人もいるが、困難に耐えてついには幸福を得るという「楽天性の物語」とはいえまいか。本場ドイツの『グリム童話』の「白雪姫」もその一つ。▶王妃の問いに応じて鏡は「白雪姫はあなたより千倍も美しいです」というのを聞いたまま母の王妃は姫を殺そうと企てる。森へのがれた姫の前に一軒の家がみえた。中に入ると食事が用意され人影はない。彼女がすべて食べ終わったところへ七人の小人が帰って来た。彼らの驚きはいかばかりだろう。▶「誰れが椅子に腰かけ、皿から採り、パンや野菜を食べ、フォークをさし、ナイフで切ったのか、誰れが盃から飲んだのだ！」というわけである。ここにはドイツ語のエッセンスである「ワク構造」がくり返されている。〈hat……ge-en (ten)〉という完了形の時、英語の have 動詞に当る hat (3人称形) が過去分詞を文末に置いて「ワク構造」を形成している。定動詞は普通文中の第2位に位置するが、複合形になると助動詞は第2位、過去分詞は文末にくる。▶このような例は「未来形」「受動文」「分離動詞」はもちろん、「副文」「副詞節」「話法の助動詞のある文」などでの定動詞の後置としてられる。いってみれば日本語の動詞が文末にくると似ている。▶フランス語同様ドイツ語も英語の

グランドスラム	グ ラ マ ー
第 2 回	ド イ ツ 語

Sneewitchen

Der erste sprach:
„Wer hat auf meinem Stühlchen gegessen?“
Der zweite:
„Wer hat von meinem Tellerchen gegessen?“
Der dritte:
„Wer hat von meinem Brötchen genommen?“
Der vierte:
„Wer hat von meinem Gemüschchen gegessen?“
Der funfte:
„Wer hat mit meinem Gäbelchen gestochen?“
Der sechste:
„Wer hat mit meinem Messerchen geschnitten?“
Der siebente:
„Wer hat aus meinem Becherlein getrunken?“

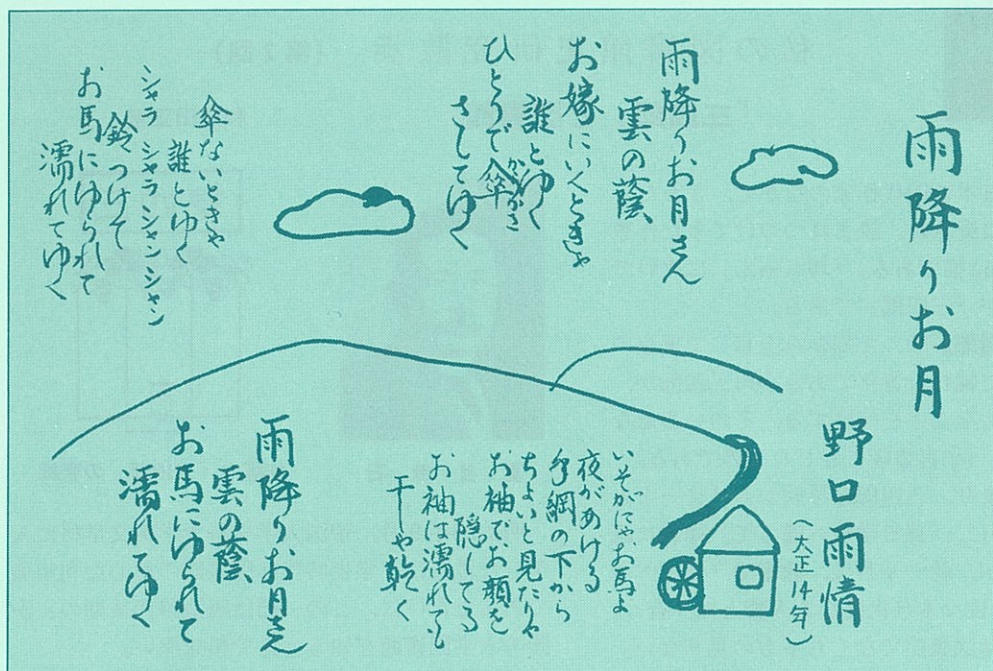
be 動詞と have 動詞が重要な役割を果たすが、完了形に於いては have 動詞 (haben) ばかりでなく、be 動詞 (sein) も用いられる。過去分詞の語幹が〈ge-〉となるのもドイツ語の特徴だ。▶ドイツ語の名詞は文中で「大文字」になるほか、英仏両語にはない「てにをは」を区別するための冠詞の「格変化」がわずらわしいが、これはあくまで枝葉であって、本来幹である「ワク構造」を見うしなわれないことが肝要だろう。▶結局、白雪姫は王妃に毒殺されるものの王子が助けて幸せとなるのだ。(乙)

〈ほん〉 『グリム童話をドイツ語で読む』小塩節
PHP 研究所 1984。『英語からドイツ語へ』
藤田五郎 第三書房 1979。

新着雑誌

女子聖学院短期大学紀要 18:1986+/住宅特集
1:1986/5月+/金沢大学工学部材料開発研究室報告
1:1985+/関東学園大学大学院紀要 3:
1985/12+/北見郷土博物館紀要 北見 15:
1985+/〔神戸大学工学部建築系教室〕 Colloquium
1:1986/3月+/京都産業大学世界問題研究所所報
世界の窓 1:1985+/日本福祉大学図書館報:える
こんぱす 創刊号:1986/4月+/〔立命館大学人文
科学研究所京都地域研究会〕京都地域研究 京都
1:1986/3+/市民と司法書士(全国青年司法書士
連絡協議会) 5:1986/3月+/信託研究奨励金論
集 1号:昭60/12(序)+/〔高山短期大学〕研究紀要東邦
学誌 名古屋 12-15:昭57-昭61+/屯田(北海道
屯田倶楽部) 札幌 1-2:昭60-昭61+/〔東洋大

学〕井上円了研究 1-4:昭56-昭61/〔東洋大学〕
井上円了研究資料集 1-3:昭56-昭57/ABA
(American Bar Association) journal. Chicago, Ill.
71-72:1985-1986+/Administration & society.
Berkeley Hills. 16-17:1985-1986+/Archiv für
Kriminologie. Lübeck. 140-177:1967-
1986+/Bayerische Verwaltungsblätter.
München. 116:1985+/Betriebs-Berater.
Heidelberg 1-38,40:1946-1993,1985+/British
journal of criminology. Amsterdam 1-25:
1960/61-1985+/Cambridge law journal.
Cambridge. 44:1985+/Cornell law review.
Ithaca, N.Y. 70-71:1984/85-1985/86+/L'
echo de la France. 東京 飛鳥洞 79/80-81/
82:1986/4+/Europhysics letters. Paris vol.
1 no 1:1986+



中山晋平

(なかやま・しんぺい)

「赤い鳥」に導びかれた童心曲調

松井須磨子が歌う「ゴンドラの唄」(ツルゲーネフの『その前夜』の劇中歌)も又「カチューシャの唄」同様大好評。作曲した中山晋平もほくそえんでいたことだろう。ところが思いもかけない出来ごとが起る。▶大正8年、島村抱月の後を追うように松井須磨子の自殺、そして「芸術座」の解散。晋平が途方にくれたのも無理はない。その彼を救ったのが、あの「赤い鳥」運動であった。それは彼にとっても、又後世の我々にとっても幸運だった。▶そこには有島武郎が、竹久夢二がいた。白秋が、雨情がいた。山田耕作と共に彼はこの二人の詩人に曲をつけることになる。白秋と雨情の詩は「三つ子の魂」にふれる単純で明解な詩だった。そこには、今我々が見失っている「子供の心」

がある。▶晋平はとくに雨情の詩に曲をつけた。取りあげた「雨降りお月」をはじめ「しゃぼん玉」「兎のダンス」「あの町この町」「証城寺の狸ばやし」は今でも我々の心になつかしい。それは「子供」を見出した時代の遺産である。▶ほかに処女作「せいくらべ」「てるてる坊主」など。「おぼろ月夜」の作者高野辰之と同じ長野県に1887年に生れた。来年は生誕100年ということになる。今年生誕100年を迎えた山田耕作とは一つ下だった。(彦)

〈ほん〉『日本歌謡集』(日本の詩歌別巻) 中央論社1968。『定本野口雨情1-4』未来社。1986。別冊太陽『青春詩情歌集』(日本のこころ 51) 講談社 昭60年9月

▶4月下旬、「核の恐怖」をまざまざとみせつけたソ連、チェルノブイリ原発事故。ジェット気流は日本にも放射能を降らせる。献身的な生命をかけての消火作業がなかったらモスクワも危なかったとか。▶ゴルフの祭典「マスターズ」(名手たち)で不死鳥の如く甦ったジャック・ニクラス、6月の全米オープン8位でグランドスラム無念。▶かっ

ジャーナル・交差点

てなく「子供をみつめた」大正時代。「赤とんぼ」の山田耕作生誕100年。父母が早く亡くなり、苦しかった少年時代。からたちの実を食べたことも。「からたちの花」は今では世界の名曲の一つ。〈音楽の友〉6月号は山田耕作特集。

『三四郎』と図書館

和泉田正宏

夏目漱石は日本の近代作家のなかで、きわだつて多くの読者に愛され、読まれつづけてきた作家であり、『吾輩は猫である』『坊ちゃん』に次いで人気が高いのが『三四郎』である。

漱石は『三四郎』で、九州から上京して東京の大学に入学した純朴な青年である小川三四郎が、「東京でいろんなことを経験する、そのいろんな経験を書かう」(小宮豊隆)としたものである。

新学期が始まり、三四郎は早朝から「ノートとインキ壺」を手に、「毎日学校へ通って、律義に講義を聞いた」が、約一ヶ月後、教室で「愛すべき悪戯者」である佐々木与次郎なる人物と知り合う。

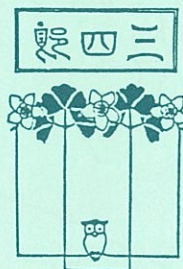
「これから先は図書館でなくちゃもの足りない」という与次郎の一言で、はじめて図書館にはいることを知った三四郎は、翌日から、それまで一週間平均40時間の講義を半分に減らして図書館に通うことになる。漱石は三四郎の目に映った図書館の第一印象をつぎのように描写している。

広く、長く、天井が高く、左右に窓のたくさんある建物であった。書庫は入口しか見えない(略)。三四郎は一年生だから書庫へははいる権利がない。しかたなしに、大きな箱入りの札目録(註)を、こごんで一枚一枚調べてゆくと、いくらめくってもあとから新しい本の名が出てくる。しまいに肩が痛くなった。三四郎が驚いたのは、どんな本を借りても、きっとだれか一度は目を通してという事実を発見した時であった。

(註)分類カード目録、著者カード目録。



夏目漱石



初版本『三四郎』の表紙

明治23年9月、帝国大学文科大学英文学科に入学した漱石は、学生時代は図書館の熱心な利用者であっただけに、この一節は明治時代後期のわが国の大学図書館を知るうえで興味深い。

『三四郎』は、田舎からでてきた大学生に里見美禰子という都会の女性を配した「青春小説」(山本健吉)でもある。美禰子は無意識下においては三四郎にひかれていながら、意識のうえではその愛を否定している。彼女が結婚を決意した時、三四郎に聞きとれないくらいの声で、「我はわが愆を知る。わが罪は常にわが前にあり」とつぶやく。unconscious hypocriteとして犯した行為(罪)の結果が、発展的に追求されていくのは、男女の立場を逆にして、つぎの『それから』と『門』で完結する3部作においてである。

stray sheepという言葉を残した『三四郎』は森鷗外をして『青年』を書かせたといわれる。漱石が没してちょうど70年、今日もなお、大学生にとって新鮮な魅力を失わない作品である。

(本学事務部長・図書館事務長)

開館時間

本館

9:30~20:00 (月~金)

9:30~18:00 (土)

工学部分室

9:30~17:00 (月~金)

9:30~13:00 (土)

日曜祝日、創立記念日は休館いたします。

北海学園大学附属図書館報

図書館だより

Vol. 8 No. 2

(通巻 98号)

本館 〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
(011)-841-1161 内線 272~275

工学部分室 〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
(011)-561-2911 内線 64